

年 間 授 業 計 画

科 目 名		地理総合	単位数	2 単位	学年・学科	1 学年 全学科	展開	必修・ 選択
教科書名		高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる(第一学習社)			副教材名	新詳高等地図 (帝国書院))		
科 目 の 目 標		地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。						
学習内容と進め方		地理に関わる事象の意味や意義、地理的特色や相互の関連性・位置や分布、人間と自然環境の関係を学習する。 教科書とプリント、問題集を利用した学習を中心として行う。内容によってグループでの課題解決学習も行う。						
学 習 の 留 意 点		(1) 常に復習し、反復練習によって、問題を解く力を身につけさせる。 (2) 課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。						
月	単 元	定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考 (評価項目)	
				1	2	3		
4	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域と様々な領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき 第2編 国際理解と国際協力	6	位置の基準～地球上の緯度と経度 時間の基準～時差と標準時 様々な地図のメリットとデメリット インターネットを利用し、Web地図にアクセスする。 国家とその領域 視点を変えてみた日本の位置 交通・通信による結びつき 貿易・物流による結びつき 観光による結びつき	○	○	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。 ・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
5		6		○	○			
6		8		○	○			
7～8	1章 生活・文化の多様性と国際理解 ①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候 ③「衣・食・住」から見る世界 ④暮らしを豊かにする産業 ⑤宗教と人々の暮らし ⑥暮らしを楽しむための文化 ⑦多様性に富んだ世界の人々との共生 第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標 (SDGs) ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題 3節 自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題	7	ケッペンの気候区分 気候の地域性 農業・工業・サービス業の発展と生活文化 宗教の分布と生活文化 生活文化の多様性	○	○	・多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題などの具体的な事例を通して理解する。 ・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を資料やインターネットなどで調べ、話し合う。 ・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・身の回りに見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
9		8		○	○			
10		8		○	○			
11	4節 現役世代と将来世代のための地球 ①地球温暖化問題 ②陸地の環境問題 ③海洋の環境問題 5節 平和で公正な社会に向けて ①世界の民族と民族問題 ②世界のさまざまな紛争 ③さまざまな対立の解決に向けて ④国際協力とパートナーシップ 第3編 持続可能な地域づくりと私達 1章 自然環境と防災 ①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境 ③変動帯の自然と防災 ④湿潤地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え	8	世界各地の人口問題 食料問題の背景と解決策 鉱物資源・エネルギー資源とその課題 資源のリサイクル・再生可能エネルギー 居住・都市問題と都市計画	○	○	・身の回りで見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。 ・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 ・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 ・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査	
12		7		○	○			
1～3		12		○	○			
評価方法		(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。						
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1知識・技能	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。						
	2思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。						
	3主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。						
評価基準	1知識・技能	A 基本的な概念や知識を体系的に理解している。 B 基本的な概念や知識を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念や知識を体系的に理解が不十分である。						
	2思考・判断・表現	A 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身につけている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけていない。						
	3主体的に学習に取り組む態度	A 社会や世界と関わるために、積極的に地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 社会や世界と関わるために、積極的に地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしている。 C 地理的知識を活用しようとしたり、粘り強く考えたりしようとしてできない。						